

I. 平成22年度フォローアップ結果のポイント

○計画期間；平成19年12月～平成25年3月（5年4月）

1. 概況

平成23年3月12日の九州新幹線全線開業に向け、官民ともに様々な事業を実施した。

陸の玄関である鹿児島中央駅地区では、鹿児島中央駅のリニューアルにより延べ床面積が約1.5倍になり、新たにビックカメラ鹿児島中央駅店などが出店するとともに、中央町22、23番街区市街地再開発事業が完了し、商業・業務複合施設「アエールプラザ」と商業・都市型住宅施設「アエールタワー」が開業したほか、民間による業務・ホテル・バスターミナル等複合施設の着工など、都市機能の集積が図られている。

新幹線全線開業により増大する交流人口の効果を中心市街地全体へ波及させる仕組みづくりとして、甲突川右岸緑地整備事業による観光交流センターの設置や、歴史ロード“維新ふるさとの道”の整備、清滝川通りの遊歩道整備、観光オブジェの設置などハード整備を実施したほか、ボランティアガイドによるまち歩きのコース・ガイドの拡充や、「食」をテーマにしたイベントやキャンペーン等を通して薩摩流のおもてなしを行うなど、回遊性の向上を図った。

天文館地区においては、平成21年5月に閉店した三越鹿児島店跡が改修され、新たに商業・交流施設「マルヤガーデンズ」が平成22年4月に開業し、中心市街地のにぎわい創出や商業活性化に好影響をもたらしている。また、増床計画を延期している山形屋は、暫定的にイベント広場を整備し供用を開始するとともに、空き地となっていたエンパイヤビル跡地についても、全国都市緑化かごしまフェア開催を機に緑化広場として整備され、イベント活動などの新たな拠点となっている。

なお、総事業69事業のうち、27事業が完了、ソフト事業など26事業が実施中、16事業が未完了（うち3事業が未着手）である。

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
まちなかのにぎわい創出と回遊性の向上	歩行者通行量 (20地点、土日)	125,531 人/日 (H18年)	150,000 人/日 (H24年)	125,101 人/日 (H22年)	③	③
九州新幹線の開業効果を生かした観光の振興	中心市街地の年間入込観光客数	6,801 千人 (H18年)	8,000 千人 (H24年)	7,330 千人 (H21年)	①	①
南九州随一の中心市街地の商店街活性化	小売業年間商品販売額	209,421 百万円 (H16年)	210,000 百万円 (H24年)	167,200 百万円 (H21年)	—	④

注) ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

①「歩行者通行量」について

- ・三越鹿児島店跡に開業した「マルヤガーデンズ」周辺の歩行者通行量は増加したものの、全体としては125,101人と減少（前年比2.7%減）した。
- ・集客の核となる山形屋増床や（仮称）天文館シネマ整備の進捗が予定通りではないものの、新幹線開業という千載一遇のチャンスを生かし、新規事業の追加も含めて引き続き計画に取り組むことで、目標達成は可能と見込まれる。

②「中心市街地の年間入込観光客数」について

- ・中心市街地の年間入込観光客数は、過去最高を記録した平成20年からわずかに減少し、7,330千人（前年比0.1%減）となった。
- ・平成23年3月12日の九州新幹線の全線開業を見据え、官民ともに様々な事業を実施しており、引き続き計画に取り組むことで目標達成は可能である。

③「小売業年間商品販売額」について

- ・小売業年間商品販売額は、1,672億円（平成19年比8.3%減）と推計される。
- ・山形屋の増床計画が延期されていること、中心市街地内の空き店舗率が依然高い状態にあることなどから、このままでは目標達成可能とは見込めない。

4. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

③「小売業年間商品販売額」について

- ・前回フォローアップは実施していない。

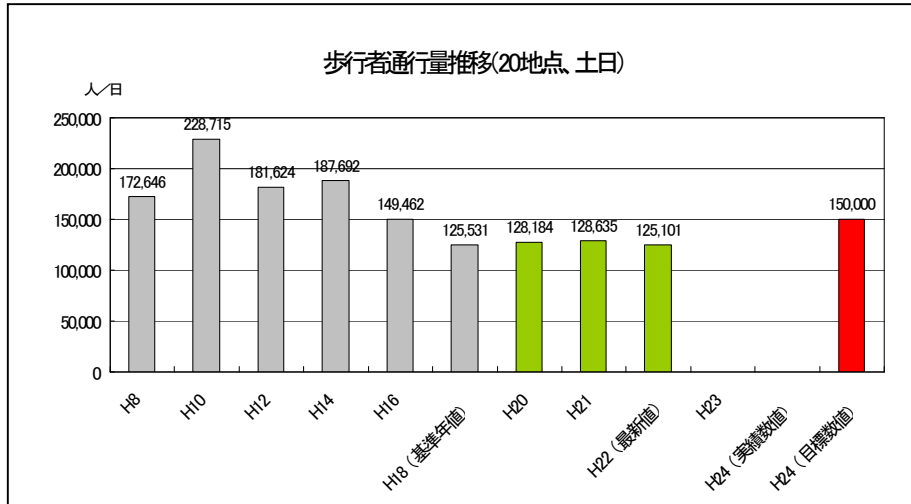
5. 今後の対策

- ・基本計画に掲げる事業を着実かつ円滑に推進するため、民間事業者と連携し、延期となっている老舗百貨店山形屋の増床事業の実現を図るとともに、新たに民間による高速バスのターミナル再整備を含む商業・業務等複合施設の整備事業を追加する。
- ・回遊性の向上を図るため、商店街の緑化整備を行う天文館通1号線緑化整備事業や、いづろ・天文館地区とウォーターフロント地区を結ぶ通りにイルミネーションを設置する「冬季光の回廊」事業等を新たに追加する。
- ・さらに、本市最大の観光資源である桜島と錦江湾の魅力を海上から身近に楽しめる「よりみちクルーズ船」を運航する事業を新たに追加する。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果「まちなかのにぎわい創出と回遊性の向上」

「歩行者通行量」※目標設定の考え方基本計画 P40～P46 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H18	125,531 (基準年値)
H20	128,184
H21	128,635
H22	125,101
H23	
H24	150,000 (目標値)

※調査方法；歩行者通行量調査（毎年度 10 月実施）

※調査月；平成 22 年 10 月調査、平成 23 年 1 月取りまとめ

※調査主体；鹿児島市

※調査対象；土・日曜日 20 地点の歩行者及び軽車両通行者

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. (仮称) いづろ・天文館地区商業活性化事業（山形屋増床整備を含む）(株山形屋)

事業完了時期	【未】平成 23 年度
事業概要	老舗百貨店（山形屋）の増床（16,000 m ² ）、イベント広場及びプロムナードの整備。
事業効果又は進捗状況	当面、急速な個人消費の回復は望めない状況にあり、現在の経済情勢では投資のリターンが見込めないため、事業の実施を延期している。平成 22 年 11 月、暫定的にイベント広場を整備し、供用を開始した。

②. (仮称) 親子つどいの広場施設整備事業（鹿児島市）

事業完了時期	【済】平成 20 年 2 月
事業概要	子育て中の親とその子どもが気軽に集い、育児相談、子育てに関連する情報交換等を行い、相互に交流できる子育て支援施設（614 m ² ）の整備。
事業効果又は進捗状況	親子つどいの広場については、計画の見込み利用者数 100 人／日を超える 114 人／日が利用しており、歩行者通行量の増加に寄与している。

③. 大河ドラマ「篤姫」放映を生かした各種観光施策の推進（鹿児島市、実行委員会等）

事業完了時期	【済】平成21年3月（大河ドラマ「篤姫」対策推進事業）
事業概要	歴史観光の中核施設である「維新ふるさと館」では、大河ドラマ「篤姫」の放映効果を持続させるため、「篤姫館」を移設するなどのリニューアルを行うとともに、西郷隆盛・大久保利通らの誕生地に幕末から明治維新の歴史を感じながら散策できる“維新ふるさとの道”の整備のほか、ボランティアガイドによるまち歩きツアーを実施するなど、各種観光施策を展開する。
事業効果又は進捗状況	平成22年の「維新ふるさと館」入館者数は、156,572人（前年比8.5%減）となった。一方、ボランティアガイドによるまち歩きツアーに1,359人（平成22年10月時点、前年同月比8.6%増）が参加するなど、一定の効果がある。

④. 【追加】いづろ・天文館地区にぎわい創出拠点施設整備事業（株天文館）

事業完了時期	【未】平成23年度
事業概要	老舗百貨店（山形屋）の増床計画に伴う敷地整序型土地地区画整理事業により市が換地取得した土地等に文化商業複合施設（多目的ホール兼シネマコンプレックス、商業施設等）を整備する。
事業効果又は進捗状況	平成22年度は事業計画の見直しを行い、平成23年5月に建設工事着手、平成24年5月開業予定。多目的ホール兼シネマコンプレックスは、年間27万人の入館者を見込む。

⑤. 【追加】呉服町6番街区等整備事業（株丸屋本社）

事業完了時期	【済】平成22年度
事業概要	平成21年5月に閉店した三越鹿児島店跡を取得・改修して、商業施設等（商業施設、コミュニティ施設、自走式立体駐車場）を整備する。
事業効果又は進捗状況	平成22年4月に「マルヤガーデンズ」として開業した。同店周辺では歩行者通行量が増加し、一定の効果が表れている。 年間来店者数350万人、年間売上高70億円を見込む。平成23年2月時点で、来店者数はほぼ予定通り。売上高は若干下回る。

⑥. 【追加】天文館通1号線緑化整備事業（鹿児島市）

事業完了時期	【未】平成23年度
事業概要	天文館一丁目商店街（テンパーク通り）において、路面の一部芝生化等の緑化整備と車両の一方通行化を行う。
事業効果又は進捗状況	平成22年度：実施設計。 平成23年度：建設工事着手、平成23年夏季完成予定。

⑦. 【追加】 冬季光の回廊事業（鹿児島市）

事業完了時期	【実施中】平成22年度～
事業概要	宿泊観光客数の落ち込む冬季（12月、1月）における夜の回遊性向上と観光客誘致を図るため、いづろ・天文館地区とウォーターフロント地区を結ぶ通り等にイルミネーションを設置し、「光の回廊」を設置する。
事業効果又は進捗状況	平成22年度は12月1日から1月31日に実施し、事業実施区間を周遊するバス「カゴシマシティビュー」夜景コースの12、1月の乗客数は2,531人（前年比37.4%増）となり、一定の効果が表れている。23年度はイルミネーション設置区間を延長する予定。

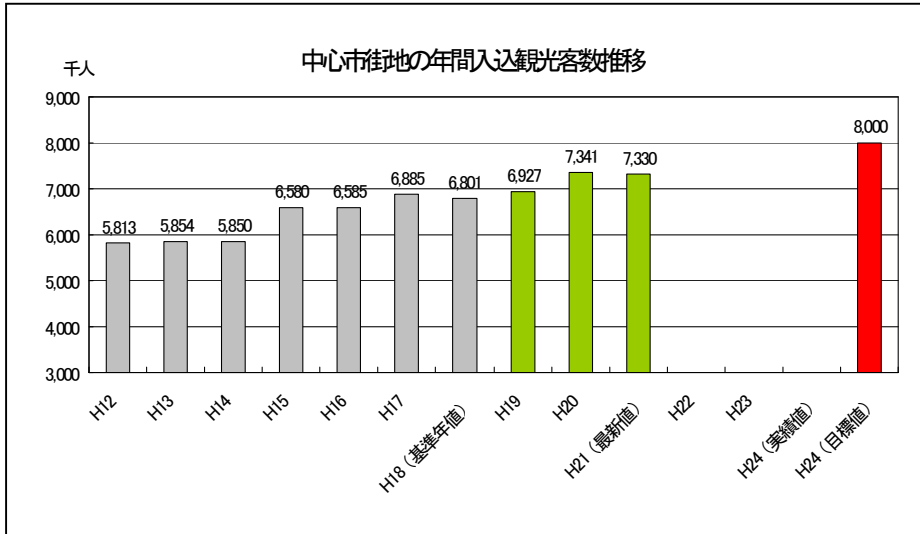
3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・三越鹿児島店跡に開業した「マルヤガーデンズ」周辺の歩行者通行量は増加したものの、中心市街地全体としては125,101人と減少（前年比2.7%減）した。
- ・集客の核となる山形屋増床や（仮称）天文館シネマ整備の進捗が予定通りではないものの、新幹線開業という交流人口増加のチャンスを生かし、新規事業の追加を含め引き続き計画に取り組むことで、目標達成は可能と見込まれる。
- ・新幹線全線開業により増大する交流人口の効果を中心市街地全体へ波及させるため、甲突川右岸緑地整備事業による観光交流センターの設置や、歴史ロード“維新ふるさとの道”の整備、清滝川通りの遊歩道整備、観光オブジェの設置などハード整備を実施した。また、ボランティアガイドによるまち歩きのコース・ガイドの拡充や、いづろ・天文館地区の回遊空間づくり社会実験「まちラボ」の実施、「食」をテーマにしたイベントやキャンペーン等を通して薩摩流のおもてなしを行うなど、回遊性の向上を図る仕掛け作りを進めてきた。
- ・更なる回遊性の向上を図るため、いづろ・天文館地区から中央公園、歴史と文化のゾーンにつながる商店街の緑化と車両一方通行化を行う天文館通1号線緑化整備事業や、いづろ・天文館地区とウォーターフロント地区を結ぶ通りにイルミネーションを設置する「冬季光の回廊」事業を新たに追加する。
- ・基本計画に掲げる事業を着実かつ円滑に推進するため、民間事業者と連携し、延期となっている老舗百貨店山形屋の増床事業の実現を図る。また、シネマコンプレックスを含む文化商業複合施設の整備事業については、9スクリーンを7スクリーンにするなど事業計画を見直し、平成23年5月に着工、翌年5月に開業予定であり、年間27万人の入館者を見込む。

II. 目標毎のフォローアップ結果「九州新幹線の開業効果を生かした観光の振興」

「中心市街地の年間入込観光客数」※目標設定の考え方基本計画 P47～P51 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：千人)
H18	6,801 (基準年値)
H19	6,927
H20	7,341
H21	7,330
H22	
H23	
H24	8,000 (目標値)

※調査方法；観光統計調査

※調査月；平成21年1月～12月の実績を翌7月に集計

※調査主体；鹿児島市

※調査対象；高速、鉄道、バス、船舶等の各種交通機関利用者及び中心市街地内の宿泊施設利用者

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 大河ドラマ「篤姫」放映を生かした各種観光施策の推進（鹿児島市、実行委員会等）

【再掲】P4 参照

事業完了時期	【済】平成21年3月（大河ドラマ「篤姫」対策推進事業）
事業概要	大河ドラマ「篤姫」の放映効果を生かすため、「篤姫館」を設置運営するとともに、歴史観光の中核施設である「維新ふるさと館」のリニューアルや、西郷隆盛・大久保利通らの誕生地に幕末から明治維新の歴史を感じながら散策できる“維新ふるさとの道”の整備のほか、ボランティアガイドによるまち歩きツアーを実施するなど、各種観光施策を展開する。
事業効果又は進捗状況	「篤姫館」には計画の3倍以上の667千人（平成20年度）が訪れ、「維新ふるさと館」には、171,077人（平成21年、前年比1.7%増）が訪れた。また、まち歩きツアーに2,417人（平成21年）が参加するなど、一定の効果があった。※平成22年10月時点1,359人

②. かごしま水族館10周年記念事業（鹿児島市）

事業完了時期	【済】平成22年度
事業概要	開館10周年を迎えた水族館について、イルカ水路の延長など参加・体験型を重視したシステム導入、施設の改修等を行う。
事業効果又は進捗状況	平成21年の入館者数は68.2万人（前年度比3.4%減）であり、改修後（平成22年）は高止まりとなっている。

- ③. (仮称) いづろ・天文館地区商業活性化事業 (山形屋増床整備を含む) (株山形屋)
【再掲】 P3 参照

- ④. 甲突川右岸緑地整備事業 (鹿児島市)

事業完了時期	【済】平成 22 年度
事業概要	九州新幹線の全線開業に向け、市民や観光客が楽しく周遊・散策ができるよう観光交流センターやオープンテラス等の整備を行う。
事業効果又は進捗状況	平成 22 年 8 月に完成した。観光交流センターは、10 月に飲食店が開業し、供用開始以来 12 月までで、1 万人を超える来館者がある。

- ⑤. 【追加】よりみちクルーズ船運航事業 (鹿児島市)

事業完了時期	【実施中】平成 22 年度～
事業概要	九州新幹線の全線開業に向け、錦江湾と桜島の魅力を海上から楽しんでもらうクルーズ船の運航を行う。
事業効果又は進捗状況	平成 22 年は、春・秋合わせて 12 回の試験運航を実施し、3,965 人の乗船客数となった。新幹線の全線開業に合わせ、平成 23 年 3 月 10 日から毎日運航を開始した。

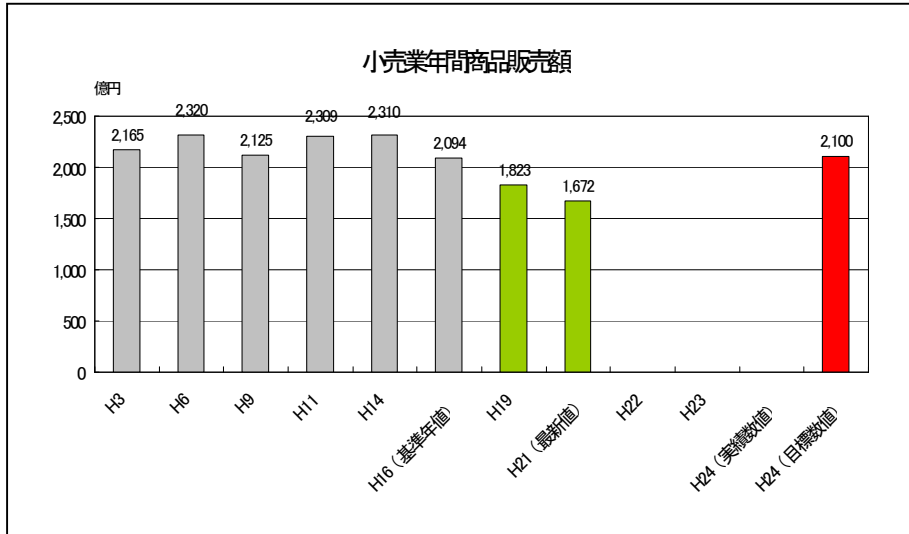
3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・ 中心市街地の年間入込観光客数 (平成 21 年) は、過去最高を記録した平成 20 年からわずかに減少し、7,330 千人 (前年比 0.1%減) となった。
- ・ これは、NHK 大河ドラマ「篤姫」放映効果の反動や経済不況により影響を受けたものの、夏季に台風などの影響を受けず比較的天候に恵まれたことや、高速道路料金の引き下げなどの下支えがあったものと考えられる。
- ・ 平成 23 年 3 月 12 日の九州新幹線の全線開業を見据え、官民ともに様々な事業を実施しており、引き続き計画に取り組むことで目標達成は可能である。
- ・ さらに、本市最大の観光資源である桜島と錦江湾の魅力を海上から身近に楽しめる「よりみちクルーズ船」を運航する事業を新たに追加する。
- ・ このほか、80 万人以上*の来場者を見込む第 28 回全国都市緑化かごしまフェア (平成 23 年 3 月～5 月) の開催や、中国観光客船の受入などの基本計画掲載事業以外の取組もあり、中心市街地の観光客数の増大に好影響をもたらすものと期待される。
※中心市街地外のメイン・サブ会場の来場者見込み。このほか、中心市街地内にまちなか会場を設け、回遊を図る。
- ・ 全線開業によるマイナスの影響も懸念されるが、九州の縦軸を構成する福岡市、熊本市、鹿児島市では三都市交流連携協定を締結しており、3 市長が共同で関西圏や韓国等への観光プロモーションを行うなど、各市域内はもとより九州域の一体的な発展に寄与する取組を実施していく。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果「南九州随一の中心市街地の商店街活性化」

「小売業年間商品販売額」※目標設定の考え方基本計画 P52～P55 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：億円)
H16	2,094 (基準年値)
H19	1,823
H21	1,672
H23	
H24	2,100 (目標値)

※調査方法；平成 19 年商業統計をもとに、平成 21 年度における中心市街地内の大型店の売上から按分して推計

※調査月；推計（平成 22 年 12 月）、商業統計（平成 19 年 6 月時点調査、平成 20 年 11 月公表）

※調査主体；経済産業省調査より鹿児島市推計

※調査対象；中心市街地内の大型店 2 店

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. (仮称) いづろ・天文館地区商業活性化事業（山形屋増床整備を含む）(株山形屋)

【再掲】P3 参照

②. 中央町 22 番街区市街地再開発事業（中央町 22 番街区市街地再開発組合）

事業完了時期	【済】平成 22 年 2 月
事業概要	第一種市街地再開発事業により、地上 4 階、延面積約 5,000 m ² の商業・業務施設、立体駐車場を整備
事業効果又は進捗状況	平成 22 年 3 月に「アエールプラザ」として開業した。 隣接する中央町 23 番街区の「アエールタワー」と合わせて 5.5 億円の売上を見込む。

③. 中央町 23 番街区市街地再開発事業（中央町 23 番街区市街地再開発組合）

事業完了時期	【済】平成 22 年 9 月
事業概要	第一種市街地再開発事業により、地上 17 階、延面積約 13,000 m ² の商業・都市型住宅施設、立体駐車場を整備
事業効果又は進捗状況	平成 22 年 10 月に「アエールタワー」として開業した。 隣接する中央町 22 番街区の「アエールプラザ」と合わせて 5.5 億円の売上を見込む。

④. 【追加】呉服町 6 番街区等整備事業（株丸屋本社） 【再掲】P4 参照

⑤. 【追加】 いろ・天文館地区にぎわい創出拠点施設整備事業（株天文館）【再掲】 P4 参照

⑥. 【追加】 中央町 11 番街区再開発事業（南国殖産株など）

事業完了時期	【未】平成 23 年度
事業概要	九州新幹線の始発着駅である鹿児島中央駅前に、高速バスターミナルや、商業・業務・宿泊施設を備えたターミナルビルを整備。
事業効果又は進捗状況	平成 22 年度：建設工事着工、平成 24 年春：竣工予定 ホテル（238 室）と高速バスターミナルの整備により、観光客等の周辺への経済効果が見込まれる。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・小売業年間商品販売額は、1,672 億円（平成 19 年比 8.3%減）と推計される。
- ・平成 23 年度に完成予定の山形屋の増床計画は、当面、急速な個人消費の回復は望めない状況にあり、現在の経済情勢では投資のリターンが見込めないため、事業の実施を延期している。
- ・また、中心市街地内の空き店舗率が依然高い状態にあることなどから、このままでは目標達成可能とは見込めない。
- ・そのため、空き店舗見学会を行う事業を追加し、これまで 7 店舗が出店するなど商業の活性化を図っていると同時に、新規出店に係る改装費や賃借料に対して補助を行う街なか空き店舗活用事業については、実施期間を平成 27 年度まで延長する。
- ・さらに、民間による高速バスのターミナル再整備を含む商業・業務等複合施設の整備事業を新たに追加する。当該施設は、ホテル（238 室）と高速バスターミナルを整備するため、観光客等による周辺商店街への経済効果が見込まれる。
- ・基本計画に掲げる事業を着実かつ円滑に推進するため、民間事業者と連携し、延期となっている老舗百貨店山形屋の増床事業の実現を図る。また、シネマコンプレックスを含む文化商業複合施設の整備事業については、事業計画を見直し、平成 23 年 5 月に着工、翌年 5 月に開業予定であり、年間 27 万人の入館者を見込む。
- ・このほか、推計値には反映されていないが、リニューアルオープンした鹿児島中央駅の商業施設「フレスタ鹿児島」は核店舗のビックカメラ鹿児島中央駅店を含め、初年度の年間販売額を 75 億円見込んでおり、中央町 22, 23 番街区の再開発ビル開業による効果と併せてプラスの要因がある。また、平成 22 年 4 月、三越鹿児島店跡に開業した「マルヤガーデンズ」は、年間来店者数 350 万人の見込みに対し、平成 23 年 2 月時点でほぼ予定通りと、三越の穴を埋めており、天文館再生のシンボルとして好評を得ている。
- ・We Love 天文館協議会においては、中国観光客の受入や市電ワンコインの日など、より目標達成に資するソフト事業を展開していくとともに、株まちづくり鹿児島と商店街が連携してテナントミックス事業計画を作成するためワークショップを開催するなど、商店街活性化に向けた新たな取組みも始められている。